



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	エコ・リーディング・シティ運動：地上に車のない都市
Author(s)	谷口, 孚幸
Description	第1回衛生工学シンポジウム（平成5年11月17日（水）-18日（木） 北海道大学学術交流会館）．7 計画、展望．P7-9
Citation	衛生工学シンポジウム論文集, 1, 290-294
Issue Date	1993-11-01
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/7468">https://hdl.handle.net/2115/7468</a>
Type	departmental bulletin paper
File Information	1-7-9_p290-294.pdf



## 7-9

### エコ・リーディング・シティ運動

#### — 地上に車のない都市 —

谷口孚幸（工学博士 大成建設株式会社 開発本部計画部）

#### 1. エコ・リーディング・シティ運動の提唱

多様な価値観に裏打ちされた様々な特徴を持つ地球環境都市を実現するために、都市を構成する主体が都市づくりに直接参画する「運動論」エコ・リーディング・シティ運動を提唱する。

##### 1. 1なぜエコ・リーディング・シティ運動か？

従来、地球環境都市の将来像の多くは、拡大する人間の欲望を前提として環境をコントロールした効率追求志向の都市、他方で、欲望を抑制し利便性の低下を容認する都市というような、両極に純化した都市のイメージで描かれていた。しかし、これらの都市は環境負荷の低減、適正なメタボリズム、資源利用の適正化、自然との共生等の目標が示されるばかりで、具体的な実現の道筋が必ずしも明確にされているとは、限らなかった。

エコ・リーディング・シティ運動は、地球環境都市実現の道筋を明確にする運動であり、人々の活動が集中する都市において人間の欲望・利便性追求と都市環境との調和・共生のあり方を模索し市民が都市環境に働きかける場合の、共通ルールをつくることを提唱するものである。すなわち、効率的でありながらも市民が安全、快適、健康な生活を営むためのテーマを探り続け、また、市民の日常生活に根ざした活動を通して、常に新生を続ける都市の実現を先導する運動の震源地づくりを目指している。

##### 1. 2エコ・リーディング・シティ運動の内容

エコ・リーディング・シティ運動は、目標とする都市の実現のために様々な領域、例えば将来都市像の構想、環境適応型価値観や思想体系の構築、環境適応型ライフスタイルの形成、新しい制度・政策の提言、エネルギーや水・情報・交通等の都市インフラ技術、新しい都市計画技法、都市の経営・管理手法の創出等について「研究→実験→学習→提案」の4つの活動の循環によって構成される。

ここでは、地球環境都市づくりの情報発信につながる「研究→実験→学習→提案」の活動が複層的に行われ、次々と新しいテーマが生み出され、永続的な活動が連続する。このような運動によって、効率性の追求のみでない、安全性、快適性、健康性に配慮された、より人間の感性に合った都市づくり、あるいは、地に足のついた実現可

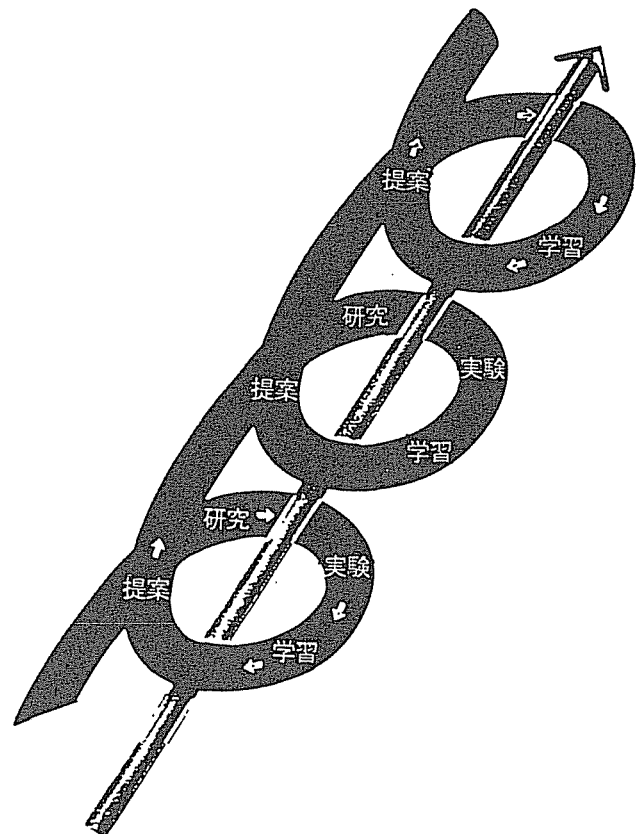


図-1 エコ・リーディング・シティ運動の模式図

能な都市づくりの可能性を高めることができる。

そしてこの運動は、都市を構成する主体である、市民・行政・開発事業者の3者による組織づくりを通して進められ、都市づくりに構成主体が直接参画していくことに特徴がある。その具体的な方法については、地域により最も受け入れられやすいように組み立てられると考えられるが、例えば多様な利害関係をもつ人々が共同で事業に取り組む方式や、合意形成に向けての共通のルールづくりを行い、その定着を図ることが挙げられる。

活動のテーマ、目標都市像等についても自然条件、社会条件等の地域特性により異なり、また、活動を通して生まれた新たなテーマにも積極的に対応していく。

### 1. 3エコ・リーディング・シティ運動の効果

エコ・リーディング・シティ運動は、都市づくりの活動を通して快適な都市を実現していくことに加えて、他地域との連携を通して様々な相乗効果や波及効果を生み出していくと考えられる。

- 研究 ——→ 成果の発表、情報発信
- 実験 ——→ 検証に基づいたルールの提唱
- 学習 ——→ 情報移転を媒介にした交流
- 提案 ——→ 展示等を通じた体験

- このような市民をも巻き込んだ広範な活動と交流を通して地球環境都市づくりの核ができ、しかも、個別の活動に取り組むグループは、自らが住む快適都市づくりに、主体的に取り組む意欲をもった人々を育てることができる。
- 現在のライフスタイルをドラスティックに変えていく、提案のための提案を排除し、検証に裏打ちされた無理のない提案を通して、地球環境都市づくりの実現性を高めることができる。
- 人々と都市環境が共生する、環境適応型価値観や、思想体系を創造するための先駆的なモデル都市として、他の都市・地域の人々を啓発することができる。
- 他の都市・地域がそれぞれの地域特性に合った、地球環境都市を体現していくことを支援・促進し、その成果についての情報交流を通して形成される、ネットワークの核としての役割を果たすことができる。

### 2. 提唱モデル……「地上に車のない都市」

エコ・リーディング・シティ運動の活動テーマは地域の特性により独自のものが求められる。ここでは、活動の一つの例として、都市の地上面に車を入れない地域をつくり、環境と調和したアメニティ豊かな、人間が主人公となる都市空間づくりを行い、人間的なふれあいの回復を目指すことを展開する。

#### 2. 1 「地上に車のない都市」の視点

車社会では、いかに車を効率良く通すかに価値がおかれており、都市づくりもこのような道路ネットワーク主体の都市計画思想に沿って行われていた。ここでは、市民の日常生活と道路とは切り離され、道路はまちを分断するものとなり、都市の地表面は車が主、人が従であるかのような様相を呈する可能性がある。しかし、かつて道は子供の遊び場であり、まちをつなぐ憩い・コミュニケーションの場として、市民の生活に密着し、人間が主人公となりうる環境を備えていた。また、現在のヨーロッパの都市では都心部への車の乗入を制限する例も見うけら

れる。

そこで、「地上に車のない都市」は、地上部の自動車交通を地下の輸送システム等で代替することで、生活利便性を維持したまま、地上部を人々に開放するシステムである。ただし、「地上に車のない都市」は、巨大都市の広がりではなく、その周辺でのニュータウン開発や地方都市の改造を契機として取り組まれることによって実現性がより高まる。そして、その地域性や規模において様々な形態の都市となる可能性がありうると考えられる。その都市は、効率性・利便性主導の都市づくりの延長上の大気汚染削減、騒音・振動削減、交通安全というマイナス要因解決だけをめざすものではない。

## 2. 2 「地上に車のない都市」のエコ・リーディング・シティ運動の活動内容

「地上に車のない都市」のエコ・リーディング・シティ運動の活動としては、次のような内容が考えられる。

### ①研究

- ・生活者主導の都市づくりの理念
- ・車を使わない都市の計画思想（都市防災・救急・防犯対策、建物と地下駐車場の間のアクセス方法 等）
- ・道の持つ多様な機能
- ・都市の成長管理思想や開発プロジェクト評価システム
- ・海外の車利用制限都市のライフスタイル研究・紹介
- ・車利用抑制型都市形成のためのインセンティブシステムづくり  
移動代替情報システム（テレコミュニケーション 等）  
代替輸送システム 等



図-2 地下駐車場により車をなくした事例  
(仏・モンパリエ市)

### ②実験

- ・車のない都市の計画思想に沿った都市づくりの実践
- ・車を使わない生活の不便さをカバーする代替移動システムの実験
- ・車利用抑制型都市づくりの合意形成
- ・裏方となる都市インフラ（地下物流システム、ゴミの真空パイプ輸送 等）
- ・都市インフラの運営・維持システムの実験
- ・車のない都市の総合マネジメント、情報収集 等

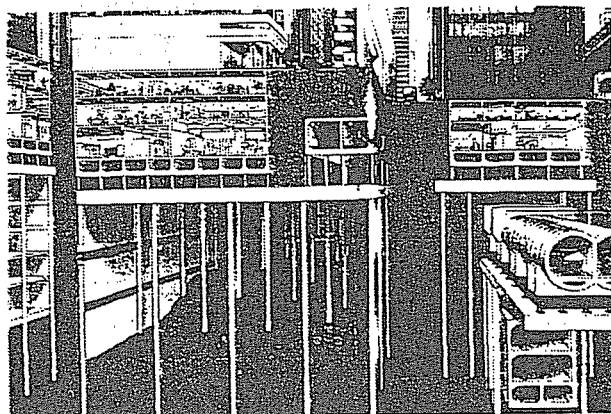


図-3 地下の都市インフラ

### ③学習

- ・新しい都市計画思想、都市の成長管理思想の普及
- ・車を使わない都市の新しいライフスタイルの成果の学習
- ・車のない都市づくりのための制度・政策の啓発・普及
- ・都市インフラ技術の活用・導入・運用ノウハウの移転
- ・学習を通しての交流の中心となるアカデミアの創設 等

### ④提案

- ・都市の歴史と人間が主人公となる都市展
- ・都市を支える都市インフラ技術展
- ・車のない都市の制度と人々の生活展
- ・環境適応型ライフスタイルとこれをもたらす文化展 等

## 2. 3 「地上に車のない都市」のすがた

「地上に車のない都市」は、地上に車を入れない比較的小規模の拠点地区をクラスター型に配置する。クラスター内では、地下道路・地下駐車場、地下物流システム・ゴミ真空パイプ輸送等の都市インフラシステムと、キャノピー付き歩行者道や動く歩道等の歩行者移動システムにより利便性を維持し、クラスター相互間および他地域との連絡は車・電車・新交通システムを主体とするネットワーク化を図る。クラスター内の地上には、プムナードや広場等の歩行者空間、水路・せせらぎ・池等の親水空間、車の走行を考慮しない植樹による景観づくり等により、あたかも公園の中に広がるような新しい都市空間の実現をめざす。

「地上に車のない都市」では、陽光がふりそそぎ、風が薫り、雨が大地をうるおし、植物や小動物をはぐくむ — この空間が人々に心のやすらぎをもたらし、より人間らしい生活やコミュニケーションづくりが展開される。「地上に車のない都市」は、これを実現するために、生活者が主人公となり、波及的な様々なテーマについてエコ・リーディング・シティ運動を展開するものとなる。

- 参考文献 1) 大成建設(株)開発本部計画部、エコ・リーディング・シティ運動—車のない都市—、(社)土木学会主催「地球環境都市パネル展」最優秀賞受賞作品、1992年
- 2) 大成建設(株)、テクノフロント1990、1990年

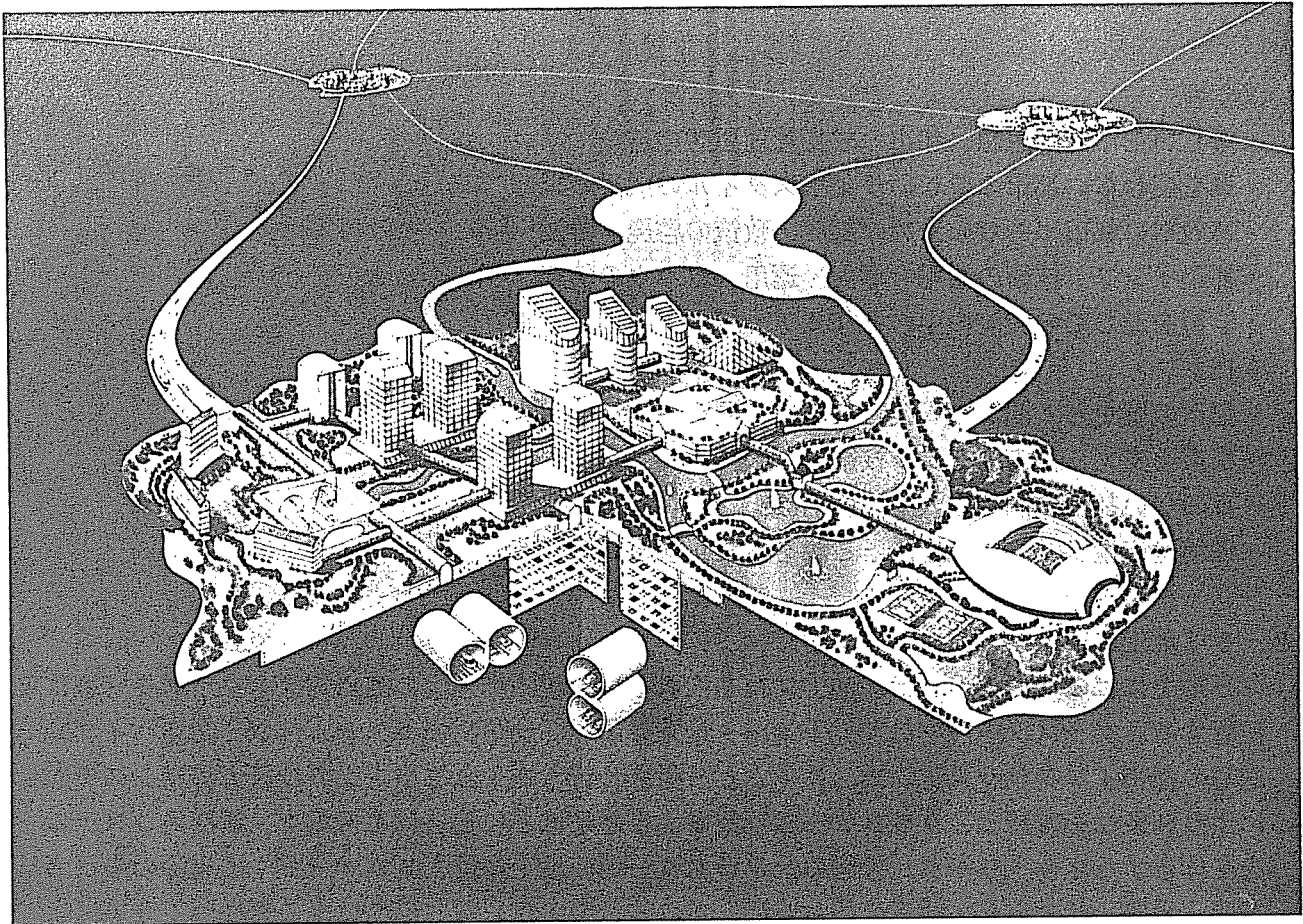


図-4 「地上に車のない都市」のイメージパース

表-1 「地上に車のない都市」の活動内容

活動	研 究	実 験	学 習	提 案
活動の領域				
将来都市像の構想 環境適応型価値観 思想体系の構築	生活者主導の都市づくりの理念（都市論研究） 都市の成長管理 車を使わない都市の計画思想	適正規模の都市づくりの実践	都市の成長管理思想の普及	車のない都市交流会議
新しい制度・政策 の提言	開発プロジェクトの評価 車利用抑制型都市の形成のため のインセンティブ 環境条例等の事例	車のない都市づくりのための インセンティブシステムの適用 開発プロジェクト評価システム、 環境条例の実践	車のない都市づくりのための 制度・政策の啓発・普及 学習を通して交流の中心となる アカデミアの創設	地球環境都市宣言 車のない都市の制度と人々の 生活展
環境適応型 ライフスタイルの 形成	海外の車利用抑制型都市のラ イフスタイルの研究・紹介 実現に向けての合意形成ステ ップ	環境適応型生活スタイルの実 践（車を使わない生活）	車を使わない都市の新しいラ イフスタイルの成果の学習 地球環境問題への都市住民の 役割と責任、そのための共通 ルールの学習	環境適応型生活展 環境適応型生活とこれをもた らす文化展
都市インフラ技術 の開発 (情報、交通、 物流、エネルギー、 水、廃棄物等)	移動代替情報システムはいか にあるべきか 代替輸送システムのあり方	人々の生活を支える裏方とな る都市インフラづくり 都市インフラの運営・維持シ ステム	都市インフラ技術の活用・導 入のノウハウ移転	都市を支える都市インフラ技 術展
都市計画技法の構 築	車のない都市の計画技法 ●道路から広場へ（道路が広 場に） ●歩車道の区別のない道路の あり方	車のない都市づくりの計画 思想に沿った都市づくりの実 践	新しい都市計画技法の教育	地球環境市民会議
都市経営・管理手 法の創出	環境共生型の都市経営の理念 づくり	車のない都市の総合マネジ メント、情報収集	新しい都市経営システムの普 及	都市の歴史と人間が主人公と なる都市展